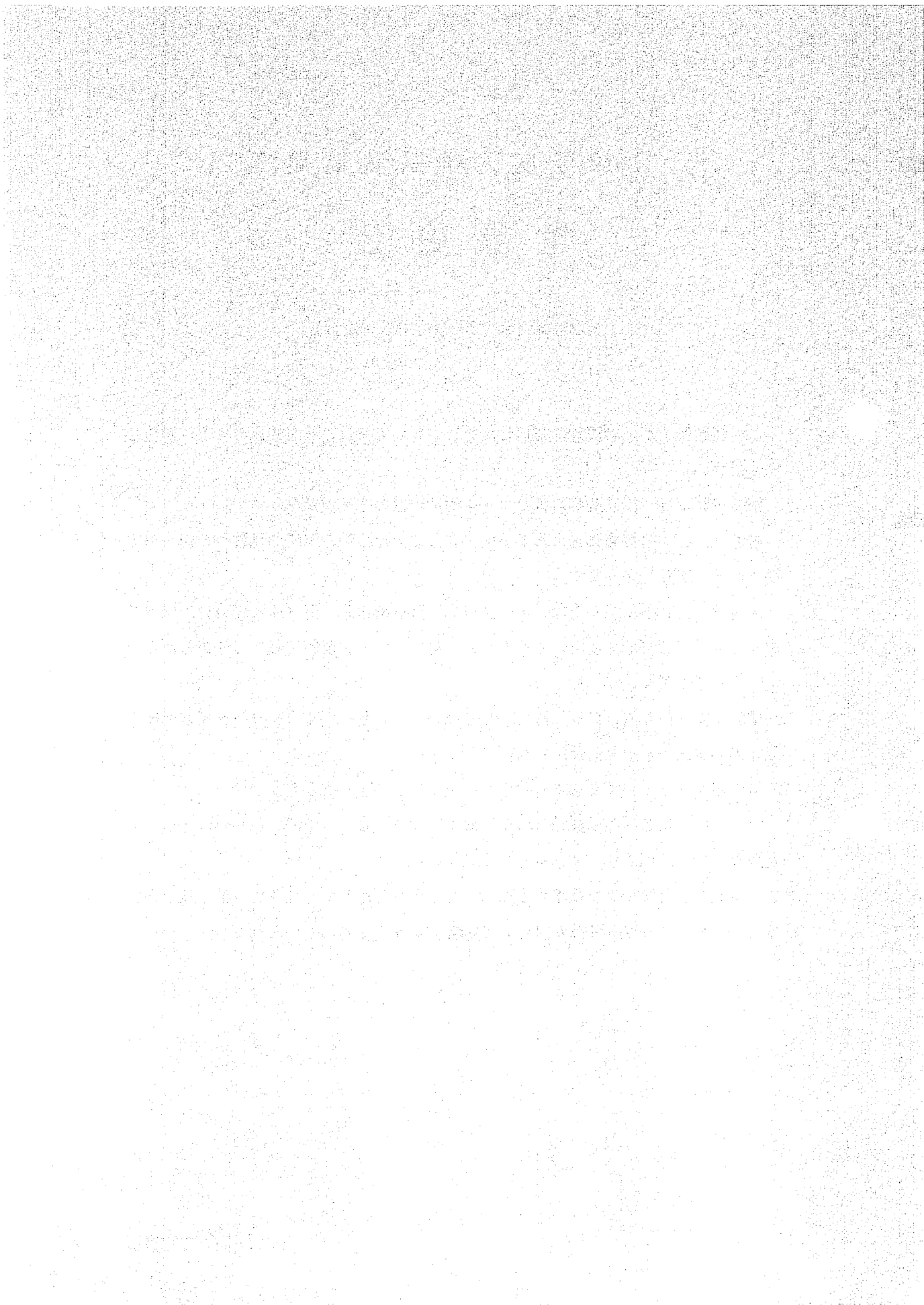


2019 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となります。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないようにしてください。
8. 一度記入したマークを修正する場合、しっかりと消してください。消し残しがあると、マーク読み取り装置が反応して解答が無効となることがあります。



I 以下の文章を読み、空欄A～Lに入る最も適切な語句を記述解答用紙に記入し、設問に答えなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。(50点)

前2300年頃から前1800年頃にかけて、北西インドのパンジャブ平原では、ムギ作農業にもとづく都市文明が栄えた。インダス川流域を中心に広範な地域で栄えたこの古代文明をインダス文明という。この文明は、おそらくは、インダス川の洪水、気候変動などによる環境悪化によって前2千年紀前半に衰退した。

遠く黒海北方の草原地帯に出自を持つインド・ヨーロッパ語族民の一派である(A)人が、イラン高原を経過して、前1500年頃に、カイバル峠を越えて、パンジャブ地方に侵入してきた。彼らは、ウマに牽引された二輪馬車に象徴される強力な軍事力を駆使して、先住民を征服した。(A)人は、自然現象を神として崇拝し、賛歌と供え物をささげていた。(B)と呼ばれるこれらの賛歌集は、バラモン教の聖典となった。前1000年頃には、(A)人はさらに進んでガンジス川流域にまで達し、その地で先住民と混交して、豊かな土壌を基礎にコメ作を行い、農耕定住社会を形成した。ここで彼らが支配者となり、まずヴァルナが、次にジャーティが形成されると、独特の階級社会が成立した。

前4世紀に、マケドニアのアレクサンドロス大王が、北西インドにまで侵入した。大王はインダス川流域を転戦して、ギリシアからインド北西部にいたる大帝國を建設した。このようなギリシア勢力の侵入は、インドに政治的統一をうながし、前4世紀の終わりに、マガダ国の武将である(C)が、北西インドのギリシア勢力を一掃した後、南西インドとデカン高原を征服して、インド史上最初の大帝国であるマウリヤ朝を建設した。前3世紀の中頃、第3代(D)王のときに行政機構も整備されて、最盛期を迎えた。

しかし、(D)王の死後まもなく、仏教優遇に対するバラモンの反発、過度の寄進による財政破綻、軍隊の弱体化などから、帝国は分裂した。前2世紀にマウリヤ朝が衰退すると、インド北西部には、サカ人、パルティア人、さらに(E)人な

ど、次々に外部からの諸勢力が侵入した。中でも（ E ）人が建てた（ E ）朝は、2世紀の（ F ）王の時代に、広大な地域を支配し、東西交流も盛んになった。④ 仏教の改革運動から生まれた大乘仏教を、（ F ）王は保護した。

西アジアで支配圏を拡大していたイスラーム勢力が、いよいよ10世紀末になると、インドへの軍事侵攻を開始した。12世紀に、ゴール朝が北インドにイスラーム支配の基礎を築いた。ゴール朝のインド遠征に同行したトルコ系マムルーク出身のアイバクは、デリーにはいて1206年に自立し、王朝を興したが、これがインドにおける最初のイスラーム政権であった。この王朝を含めて、以後、⑤ デリーを都とするイスラーム系5王朝が交代した。西チャガタイ=ハン国出身でティムール朝を興したティムールの子孫で、カーブルを拠点にしていた（ G ）は北インドに侵入し、1526年デリーの王朝を倒して、（ H ）帝国を興した。（ H ）帝国は、その孫の第3代アクバルの時代に（ I ）勢力を平定し、北インドを統一した。さらに、第6代（ J ）の時代にインドのほぼ全域に勢力をひろげた。この帝国のもとで、インド文化とイスラーム文化の融合が進んだ。しかし、彼の死後、繁栄期に経済的実力をたくわえた地方の武将が次々に自立し、帝国は分裂した。

一方、15世紀末からヨーロッパ諸国は積極的に海外に進出し始めた。ヨーロッパ諸国は、アジアに到来した当初は、交易目的を前面に出していた。15世紀末にポルトガルがインド航路を開き、17世紀になると、オランダ・イギリス・フランスがインドに進出し、（ H ）皇帝や地方政権の許可を得て、インド各地に商館を設ける一方、⑥ アジア各地にも拠点を築いていった。

（ H ）帝国の繁栄は18世紀初頭まで続いたが、それ以降は帝国の権威が失墜し、地方勢力が伸張して、各地で抗争を繰り返すようになった。1857年、（ K ）と呼ばれたインド人傭兵が反乱を起こし、首都デリーを占領した。この反乱には、多くの階層が加わり、（ H ）皇帝をいただく大反乱に発展した。この反乱は結局イギリスによって鎮圧された。イギリスは1858年に（ H ）皇帝を廃して、（ H ）帝国を滅ぼした。その後インドは、1877年、イギリスの（ L ）女王

がインド皇帝を兼ねるイギリス領インド帝国となった。行政・司法の統治体制が整備される一方で、ヨーロッパの伝統的な植民地統治方式である「分割統治」が行われた。^⑦それから1947年の独立まで、70年間にわたって、インドは、大英帝国に大きな富をもたらすかけがえのない植民地となった。1901年の時点で、イギリス（UK）の人口はわずか3259万人であったのに対して、インドは2億8387万人の人口を抱えていた。人口でほとんど9分の1しかないイギリスが、古代インダス文明から数えると4千年もの歴史を有する巨大なインド亜大陸を征服し、支配し、統治できたのも、このような狡猾な統治体制のたまものであった。

問1 下線部①に関連して、以下のうち、この文明の遺跡ではないものを1つ選び、

マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. ドーラーヴィーラー
- イ. パータリプトラ
- ウ. ハラッパー
- エ. モヘンジョ=ダロ
- オ. ロータル

問2 下線部②に関連して、誤っているものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. ヴァルナは、4つの基本的身分から成っていた。
- イ. ヴァルナは、職種によって区分された。
- ウ. ヴァルナの最上位には、王侯・戦士階級であるクシャトリヤが位置していた。
- エ. 婚姻は同一のジャーティ内のみで認められた。
- オ. ジャーティは、2000ないし3000存在した。

問3 下線部③に関連して、誤っているものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. アレクサンドロスは、ペロポネソス戦争においてアテネの側に立って戦った。
- イ. アレクサンドロスの大帝国が成立したことをきっかけに、コスモポリタニズムが普及した。
- ウ. アレクサンドロスは、アケメネス朝を滅ぼした。
- エ. ヘレニズム文化は、アレクサンドロスの遠征をきっかけに、ギリシア文化とオリエント文化が融合してできた。
- オ. アレクサンドロスは、プラトンに師事した。

問4 下線部④に関連して、インドの宗教について正しいものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. ジャイナ教は、バラモン教に民間信仰が融合してできた。
- イ. 仏教の開祖は、ガウタマ=シッダールタである。
- ウ. ヒンドゥー教は、ヴァルダマーナが開いた。
- エ. 大乘仏教では、出家者が自己の救済のために厳しい修行を実践している。
- オ. 仏教でいうダルマとは、人間として守るべき社会道德のことである。

問5 下線部⑤に関連して、デリー=スルタン朝に含まれない王朝はどれか。1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. 奴隸王朝
- イ. ガズナ朝
- ウ. トゥグルク朝
- エ. サイイド朝
- オ. ロディー朝

問6 下線部⑥に関連して、17世紀において、ヨーロッパ各国のアジアにおける拠点について誤っている組み合わせのものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

ア. イギリス → ボンベイ

イ. イギリス → スリランカ

ウ. オランダ → マカオ

エ. フランス → ポンディシェリ

オ. ポルトガル → ゴア

問7 下線部⑦に関連して、その典型的な事例のひとつである古代ローマ共和制末期の「分割統治」を、以下のすべての語句を用いて、記述解答用紙に100字以内で説明しなさい。なお、用いた語句には必ず下線を引きなさい。

同盟, ローマ市民権

問8 同じく下線部⑦に関連して、1905年に出された政令は、インド統治におけるその典型的な適用事例である。その政令名を記述解答用紙の(a)に記入しなさい。また、その政令の内容を記述解答用紙の(b)に50字以内で記入しなさい。

Ⅱ 以下の(1)～(5)の文章を読み、空欄A～Oに入る最も適切な語句を記述解
用紙に記入し、設問に答えなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。(50点)

(1) 1555年に父親からスペイン王位を継承すると同時にネーデルラントの統治を
も譲りうけた(A)は、ネーデルラントにおいて集権的統治を強化し、この
地に広まりつつあったカルヴァン派の信仰を厳しく弾圧した。そのためネーデル
ラントの人々は1568年に(B)を指導者としてスペインに対する独立戦争
を起こした。1579年、北部7州は(C)同盟を締結してスペイン軍と戦う
ことを誓った。ここにネーデルラントは北部と南部に分裂した。1581年、
(C)同盟に結集する北部7州の連邦議会は、(A)に対する臣従拒否
の宣言を決議した。こうして成立した共和国は、1609年にスペインと12年間の
休戦条約を締結し、事実上の独立を達成した。これ以降、17世紀のオランダは、
経済的に繁栄を遂げるだけでなく文化や芸術も発展した。

(2) 1602年に設立された(D)は、南アフリカの喜望峰から中国・日本にい
たる世界のほぼ東半分の貿易独占権を連邦議会から与えられていた。各地には商
館が設けられ、そのうち最も重要だったのが17世紀初頭にジャワ島に建設され
た(E)であった。ここを拠点として、(D)は南アフリカのケープ植
民地、インドの沿岸各地、台湾などをその勢力下におさめた。(D)はさら
に、1642年に(F)に命じて南太平洋を探索させた。そのとき発見された
のが、現在のタスマニア島やニュージーランドである。

(3) 1598年に西廻りでアジアに向けてオランダを出航した5隻の船隊のうちの4
隻が外国船に襲われるなどしたため、残るリーフデ号のみが航行を続けた。その
リーフデ号が1600年に豊後の海岸に漂着したことから、日本とオランダの交流
が始まった。その後、幕府から発給された朱印状にもとづき、1609年に(G)
にオランダ商館が設置されると、両国の本格的な国交が開始された。

オランダは、鎖国後も日本との交易をゆるされ、日本と中国の中継貿易によっ
て莫大な利益を上げた。日本への輸入品は中国産の生糸、絹織物が大半を占めた。

日本からの輸出品のうち、特に銀は法外な利潤の源泉であり、モルッカ諸島における香辛料の入手にも不可欠であった。ヨーロッパで人気を博していた中国磁器が明末・清初の争乱で品薄になったとき、(D) はその代替品を日本の (H) 焼に求めた。

- (4) 15 世末に (I) が率いる船が喜望峰を通過してインド航路を開いてからほぼ 150 年後に、オランダはアフリカの南端にケープ植民地を得た。この地に入植したオランダ人は、その他の移民や地元民との混血によって世代を重ね、(J) 人と呼ばれるようになった。その後、ケープ植民地はナポレオン戦争の混乱期にイギリスによって占領された。その結果、(J) 人はケープ植民地を離れざるを得なくなり、北上してオレンジ自由国と (K) 共和国を建設した。しかしここで金鉱脈が発見されると、イギリスはこの地にも侵攻した。(K) 共和国はオレンジ自由国と結んでイギリスと戦火を交えたが、イギリスが勝利したため、両国はイギリスに領有されることになった。このときイギリス側を指揮したのは、ケープ植民地首相をつとめたことがあり、世界的なダイヤモンド会社の創業者にもなった (L) である。

- (5) ジャワ島の沿岸部の若干の地点を領有していただけにすぎなかったオランダが、ジャワ島全域を植民地化するのは 18 世紀のことである。このようなオランダの支配強化に対して、有力な王族の一人であるディポヌゴロが地元勢力を糾合して大規模な反乱を起こした。これが 1830 年まで続くジャワ戦争である。この戦争のために財政状況が悪化すると、オランダは財政の建て直しのために (M) 制度を導入した。この制度は、農地の一区画を区切り、そこで 1 年の一定期間、植民地政庁によって指定され独占的に買い上げられる輸出用作物、例えばコーヒーやサトウキビなどを農民たちに作らせるものである。収穫物はアムステルダム^④のオランダ商事会社によって世界の市場に向けて販売され、莫大な利益を上げた。

19 世紀には、オランダは、ジャワ島以外の周辺の島々へも軍事遠征を行い、東インド一帯の支配を強化していった。20 世紀初頭には、(N) 戦争によ

てスマトラ島西北端の（ N ）地方を平定すると、ポルトガル領の（ O ）を除くインドネシア群島全域がオランダ領東インドに統合された。しかし1920年代になると、地域や宗教の枠をこえてインドネシアとしての統合をめざす独立運動^⑤が開始された。

問1 下線部①に関連して、カルヴァン（派）について誤っているものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. カルヴァンは、チューリッヒにおいて一種の神権政治をしいた。
- イ. カルヴァン派は、デンマークやスウェーデンなどの北ヨーロッパ諸国で主に受容された。
- ウ. カルヴァンは、牧師とそれを補佐する信徒代表からなる長老制を導入し、信徒の生活を厳格に監督させた。
- エ. カルヴァンは、人が救われるかどうかは神によってあらかじめ定められているという予定説を唱えた。
- オ. カルヴァン派は、オランダではゴイセン（乞食）と呼ばれた。

問2 下線部②に関連して、南ネーデルラント（ベルギー）について誤っているものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. スペイン継承戦争の結果、オーストリア領になった。
- イ. ウィーン会議の結果、オランダ領になった。
- ウ. 南ネーデルラント継承戦争の結果、イギリス領になった。
- エ. 七月革命の影響を受けて、オランダから独立した。
- オ. ウェストファリア条約によって、スペインからの独立が承認された。

問3 下線部③に関連して、以下に挙げるオランダの文化人のうち、17世紀に活躍した人物として誤っているものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. フェルメール
- イ. スピノザ
- ウ. グロティウス
- エ. レンブラント
- オ. ブリュエゲル

問4 下線部④に関連して、20世紀初頭の東南アジアの植民地化の状況について、誤っているものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. フィリピンはスペインの植民地
- イ. マレー半島南部（マレーシア）はイギリスの植民地
- ウ. ベトナムはフランスの植民地
- エ. タイはイギリスの植民地
- オ. ビルマ（ミャンマー）はイギリスの植民地

問5 下線部⑤に関連して、インドネシア独立運動の指導者スカルノについて、誤っているものを2つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. インドネシア国民党を結成した。
- イ. オランダにかわってインドネシアを制圧した日本軍に対する抵抗運動を組織した。
- ウ. 日本の敗戦後、インドネシアの独立を宣言した。
- エ. 九・三〇事件によって失脚したスハルトにかわって大統領の座についた。
- オ. 第1回アジア・アフリカ（バンドン）会議の開催を主導した。

問6 17世紀の英蘭関係の推移について、以下の語句をすべて用いて、記述解答用紙に170字以内で説明しなさい。なお、用いた語句には必ず下線を引きなさい。

アンボイナ事件、英蘭戦争、名誉革命

